

麻疹、おたふく風邪、風疹および水痘(MMRV)ワクチン Measles, Mumps, Rubella and Varicella (MMRV) Vaccine

お子様の安全を守りましょう。
すべてのワクチンを予定通り接種してください。

すべてのワクチンを予定通り接種することで、生涯にわたり多くの病気からお子様を守ることができます。

予防接種は過去 50 年間、カナダにおいて他のどの健康対策よりも多くの命を救ってきました。

MMRV ワクチンとは何か？

MMRV ワクチンは、以下の病気から身を守ります。

- 麻疹
- おたふく風邪
- 風疹
- 水痘(水疱瘡)

このワクチンには、麻疹、おたふく風邪、風疹、水痘帯状疱疹ウイルスの毒素を弱めた成分が含まれています。

MMRV ワクチンは、カナダ保健省により承認されており、お子様が定期的に接種するワクチンとして、無料で提供されています。医療提供者に電話し、予約してください。

誰がワクチンを接種するべきか？

4 歳から幼稚園児のお子様、MMRV ワクチンの 1 回目を接種します。ほとんどの子供が、1 歳の誕生日以降に MMR および水痘ワクチンの 1 回目を接種することになっています。MMRV ワクチンを接種することで、子供たちを麻疹、おたふく風邪、風疹、水痘からさらに守ることができます。4 歳から 12 歳の子供で、これらの病気の免疫がない場合、MMRV ワクチン接種を 2 回受ける場合もあります。

このワクチン接種による恩恵は何か？

ワクチン接種は、重度で時に死に至る病気である麻疹、おたふく風邪、風疹および水痘から身を守る最適な方法です。お子様が予防接種を受けることで、周りの人を保護することにもつながります。

ワクチン接種後に起こりうる副作用とは？

ワクチンは非常に安全です。麻疹、おたふく風邪、風疹または水痘に罹るよりもワクチンを接種する方がずっと安全です。

MMRV ワクチンによる一般的な副作用は、接種箇所の痛み、発赤、腫れなどがあります。軽度の発熱、頬や首の腫れ、麻疹、風疹、水痘のような発疹が、ワクチンを接種してからおよそ 1-2 週間後に発生する場合があります。ごく稀に、ワクチン接種後に水痘のような発疹が出た場合、ワクチンによるウイルスを拡散させる可能性があります。周りの人への感染を防ぐために、水ぶくれが乾き、かさぶたとなるまで発疹を覆いましょう。

より重度な副作用に、出血を防ぐのに役立つ血球の一時的な低下(30,000 人に約 1 人の子供)や脳に炎症が起る脳炎(100 万人に約 1 人の子供)があります。麻疹から脳炎になる可能性は約 1,000 分の 1 で、ワクチン接種から麻疹になるよりも可能性はるかに高くなります。MMRV ワクチン接種後の重度な副作用のリスクはまだ確定されていません。これらは、上記の MMR ワクチンのリスクに類似している可能性があります。

ライ症候群の詳細は、[ヘルスリンク BC ファイル#84 ライ症候群](#)を参照ください。

100 万人に 1 人未満の割合と、アナフィラキシーと呼ばれる命に関わるアレルギー反応がでる可能性は非常にまれですが、反応が出た場合に備え、ワクチン接種後 15 分間は診療所にいることが重要です。アナフィラキシーの症状には、蕁麻疹、呼吸困難、咽喉、舌、唇の腫れなどがあります。これらの症状が出た場合、

発熱や痛みがある場合、アセトアミノフェン(例: タイレノール®)またはイブプロフェン(例: アドビル®)を服用することができます。ASA(例: アスピリン®)は、ライ症候群のリスクがあるため、18 歳未満の方は服用しないでください。

医療提供者は治療することができます。緊急治療にはエピネフリン(アドレナリン)の投与と救急車での最寄りの救急科への搬送が含まれます。診療所を去った後に症状が発生した場合、9-1-1 または地域の緊急電話番号にお電話ください。

重度または予期しない副作用が出た場合は常に、医療提供者に報告することが重要です。

ワクチンを接種するべきでない人とは？

下記に該当するお子様がいる場合、医療提供者にご相談ください。

- 以前接種した麻疹、おたふく風邪、風疹または水痘ワクチン、またはネオマイシンとゼラチンを含む MMRV ワクチンによる生命を脅かす副作用があった
- 病気や治療によって免疫力が低下している
- 過去 12 か月以内に輸血または他の血液製剤による治療をした
- 以前 MMR または MMRV ワクチンを接種した後、別の原因は特定されず、出血を防ぐ役割を持つ血球である血小板の量が低下した
- 未治療の活動性結核を患っている
- 妊娠中または妊娠を計画している。女性はワクチン接種から 1 ヶ月の間、妊娠を避けるべきです

風邪やその他の軽い病気のために予防接種を遅らせる必要はありません。ただし、心配な場合は、医療提供者にご相談ください。

麻疹、おたふく風邪、風疹、水痘とは何か？

麻疹、おたふく風邪、風疹、水痘はウイルスにより発症する病気です。感染者が咳やくしゃみをするので、ウイルスは空気中に簡単に広がります。空気を吸い

込んだり、このウイルスに汚染された表面に触れることで、感染する場合があります。食べ物、飲み物、タバコの共有やキスによる感染者の唾液に触れることでも、ウイルスが拡散する可能性があります。水痘や帯状疱疹の水ぶくれからの液体に触れることで、水痘が広がる場合もあります。

麻疹は、赤麻疹とも呼ばれ、発熱、発疹、風邪のような症状が現れたり、目が赤く腫れ、光に敏感になる場合があります。耳や肺の感染症(肺炎)につながる可能性があります。1,000人に1人に発生するより重度な合併症として、脳に炎症がおこる脳炎などがあります。これは、発作、難聴、または永続的な脳の損傷につながる場合があります。麻疹患者の約3,000人に1人が合併症により死に至る場合があります。

おたふく風邪は、発熱、頭痛、唾液腺と頬の腫れを引き起こします。より重度な合併症には脳炎が含まれます。おたふく風邪患者の約20人に1人は、ムンプス髄膜炎と呼ばれる脳被膜の炎症にかかります。おたふく風邪は一時的に難聴を引き起こす可能性もあります。おたふく風邪による永続的な難聴は、おたふく風邪患者の2万人に1人未満の割合で発生します。成人および10代のおたふく風邪患者は、精巣(約4例に1例)または卵巣(約20例に1例)の痛みを伴う腫れを起こす可能性があります。

風疹は、三日はしかとも言われ、難聴、眼の疾患、心臓の欠陥、肝臓の損傷、脳の損傷など、胎児に深刻な合併症や先天性欠損症を引き起こす可能性があります。これは先天性風疹症候群と呼ばれます。これは、妊娠3か月でウイルスに感染した女性から生まれる約10人に9人の乳児に発生します。風疹により、流産や死産となる場合もあります。

水痘(水疱瘡)は、水痘帯状疱疹ウイルスによって引き起こる感染症です。水疱瘡にかかった子供は、平均350個ものかゆみを伴う赤い水ぶくれを患う可能性があります。新生児、10代の若者、成人、妊婦、免疫力が低下している方の感染はより深刻です。

水疱瘡による合併症には、肺炎、脳炎、皮膚の細菌感染症などがあります。脳炎は、発作、難聴、または脳の損傷につながる可能性があります。成人の約3,000人に1人が感染症で死亡します。

まれに、妊娠初期の感染により、先天性欠損症の乳児が生まれることがあります。これは先天性水痘症候群(CVS)として知られています。乳児は、低体重、傷跡または、手足、目、脳に障害を抱えて産まれてくる場合があります。水疱瘡により、流産や死産となる場合もあります。

現在BC州では、定期的な小児予防接種プログラムのおかげで、これらの疾患の発症は、まれです。

成熟した未成年者の同意

予防接種の同意について、ご両親または保護者の方とお子様で話し合うことが推奨されています。それぞれのワクチンによる恩恵と起こりうる副作用、および予防接種を受けない場合のリスクが理解できる19歳未満の子供は、法的にワクチン接種に対し、同意あるいは、拒否することができます。成熟した未成年者の同意の詳細については、[ヘルスリンク BC ファイル#119 乳幼児法、成熟した未成年者の同意および予防接種をご確認ください](#)。

詳細

麻疹、おたふく風邪、風疹(MMR)および水痘に関する詳細は、下記ヘルスリンク BC ファイルをご覧ください：

- [ヘルスリンク BC ファイル#14a 麻疹、おたふく風邪、風疹\(MMR\) ワクチン](#)
- [ヘルスリンク BC ファイル#14b 麻疹](#)
- [ヘルスリンク BC ファイル#14c おたふく風邪](#)
- [ヘルスリンク BC ファイル#14d 風疹](#)
- [ヘルスリンク BC ファイル#44a 水疱瘡について](#)
- [ヘルスリンク BC ファイル#44b 水疱瘡\(水痘\) ワクチン](#)



BC Centre for Disease Control
Provincial Health Services Authority